
地域の見守り・助け合い活動へのICT利活用モデル事業
「地域ICT利活用モデル構築事業」

平成20年6月19日

高知県津野町

1 . 津野町の沿革等

人 口： 6,935人（男3,296人 女3,639人） H20.4.1現在

高齢化率： 約36.8%

沿 革： 平成17年2月1日付 旧東津野村と旧葉山村が合併して現町に至る

面 積： 197.98 k m²
（旧葉山66.75 k m²/東津野131.23 k m²）

位 置： 高知市から北西に車で約1時間30分

自然条件： 本町の総面積の90%は林野で占められており、不入山を源流点とし“日本最後の清流”と呼ばれる「四万十川」と、鶴松森を源流点とし特別天然記念物のニホンカワウソが最後に見られた「新莊川」が流れ、農用地及び宅地は、この2つの川沿いの緩やかな山裾を利用して点在している。また、西北部には、日本三大カルストのひとつ「四国カルスト・天狗高原」があり、大変自然豊かな地域といえる。



2. 「津野町安心・安全ネットワーク会議」の創設

創設：平成18年6月

(1) 目的

「誰もが安心できるまち・安全で災害にも強いまちづくり」のために、防犯・防災・地域福祉など各関係機関が幅広い分野で連携・協働し、日常的に助け合っていく地域づくりや安心・安全への取り組みを推進

(2) メンバー

民生児童委員協議会、高幡消防組合津野山分署と津野消防団、須崎警察署、日赤特殊奉仕団、社会福祉協議会、高知県、津野町（総務課、住民福祉課、地域包括支援センター、教育委員会）、その他

(3) 事業

定期的な会議と研修を開催
日常的な見守り・助け合い活動の推進
住民の防災意識の高揚推進
役割分担の明確化と体制整備
その他

(4) 代表的な活動

安心・安全見守り台帳とお守りカード

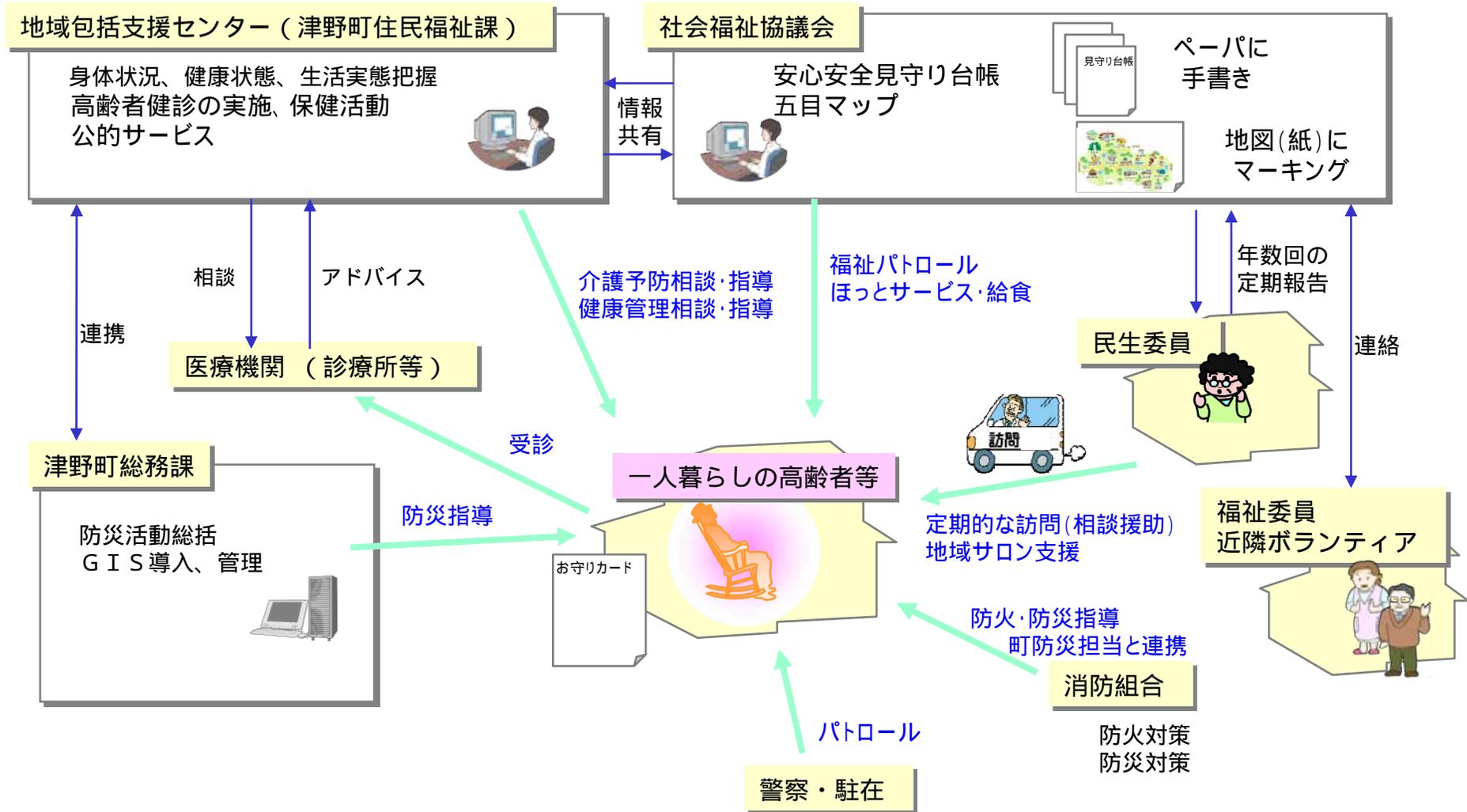
日常的な見守りや助け合いに必要な情報を記載した「安心・安全見守り台帳」を、一人暮らし高齢者などに説明し承諾を得た上で、地域包括支援センター（役場）や社会福祉協議会などの支援協力機関が保管し、災害発生時や緊急時の支援ツールとして活用する取組みを開始した。

また、高齢者宅には、その一部を記載した「お守りカード」を目の付きやすい場所に掲示してもらっている。

小地域ふくし座談会と五目マップ

地区民で地域の助け合いの仕組みづくりなどを考える座談会を開催しており、その中では意見交換に加え、地図上にひとり暮らし世帯、高齢世帯、障害者世帯、登下校危険箇所、防火設備、避難場所、福祉設備などをマーキングする「五目マップ作り」を実施している。

3 . ICT利活用前の見守り・助け合いの仕組み



4. 課題と改善対策

現状の課題



紙ベースであり情報共有や迅速な更新が困難。

社会福祉協議会

地域包括支援センター

消防署



複製



安心安全見守り台帳



各関係機関等が個別の情報を保有しており、情報の共有や連携した支援が困難。

地域包括支援センター

- 要支援（特定）高齢者情報
- 高齢者の身体健康情報
- 高齢者の生活実態情報
- 病院等専門機関等情報 etc.

社会福祉協議会

- 一人暮らし高齢者等情報
- 日常生活支援サービス情報
- 民生・福祉委員情報
- 人が集まる場所・危険な場所
- 障害者施設場所 etc.

民生委員

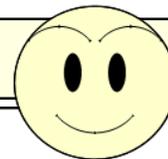
- 一人暮らし高齢者等情報
- 高齢者相談情報
- 福祉委員・近隣情報
- 地区サロン情報 etc.



消防・警察

- 救急搬送、消防団等情報
- 消火栓等情報
- 犯罪、事故、火災情報 etc.

改善後



支援者相互の情報共有と迅速な情報更新の仕組みが実現し、地域での見守り・助け合い活動である安心安全見守りネットワークが完成。

地域包括支援センター

社会福祉協議会



×さんの身体状況が変化したので適切な支援をしないと



×さんが見守り台帳に登録してくれたので登録しよう

閲覧・更新

通知

閲覧・更新

見守り台帳DB

安心安全データベース

- ・氏名
- ・生年月日
- ・住所
- ・血液型
- ・持病
- ・緊急連絡先
- ・就寝場所
- ・親しい人

各種支援情報DB

- ・民生委員情報
- ・福祉委員情報
- ・ボランティア情報
- ・犯罪、事故、火災情報
- ・人が集まる場所
- ・危険な場所
- ・福祉施設
- ・など

×地区で集会だ、犯罪情報も知らせておこう！

通知



町役場

閲覧

閲覧

通知

閲覧

民生委員等

緊急搬送で入院したが、家族の連絡先は？



消防警察



振り込み詐欺が発生、関係者に知らせよう！

かかりつけ医師が変わったので報告しよう！

5. 見守り・助け合い支援システムの利用イメージ(例)

ひとり暮らし高齢者が入院したら



1. 診療所等医療機関

・ひとり暮らし高齢者の診療情報等を連絡



連絡

2. 地域包括支援センター

・見守り台帳システムへの情報更新
・ひとり暮らし高齢者への保健師訪問手配



情報更新

連携

3. 社会福祉協議会

・見守り台帳システムの更新情報CHECK
・ひとり暮らし高齢者への民生委員訪問手配



周知連絡

Email

情報確認・民生委員連絡

4. 民生委員

・見守り台帳システムからの連絡メールCHECK
・ひとり暮らし高齢者への訪問



Email

Email

訪問状況確認

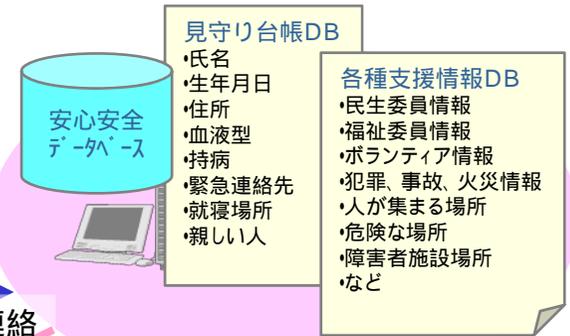
5. 高齢者の家族・親戚等

・見守り台帳システムからの連絡メールCHECK
・退院したことを把握



電話連絡・訪問等

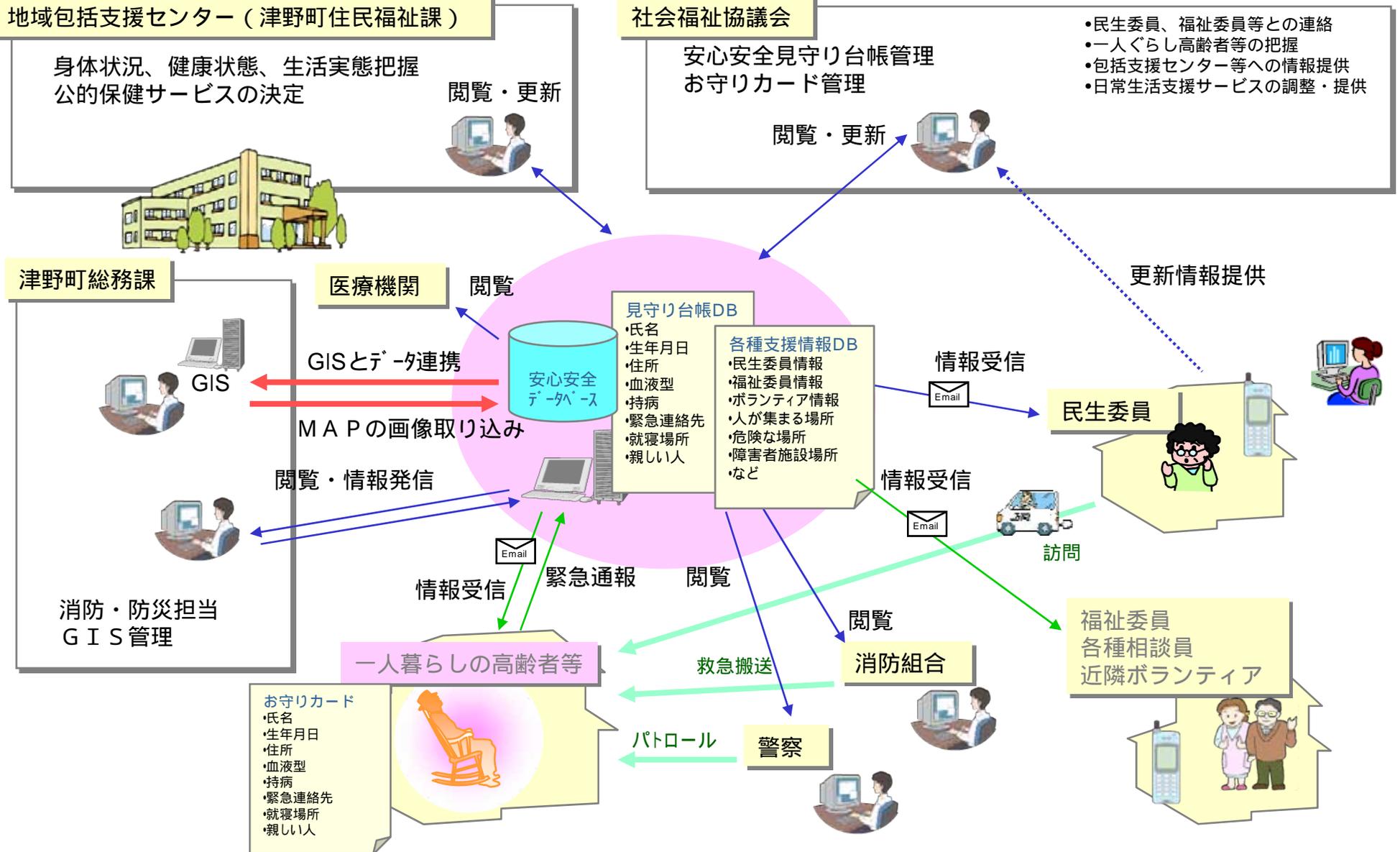
見守り・助け合い支援システム



一人暮らしの高齢者等



6 . ICT活用後の安心・安全見守りの仕組み



7 . 共有情報の具体的活用例

(1 / 2)

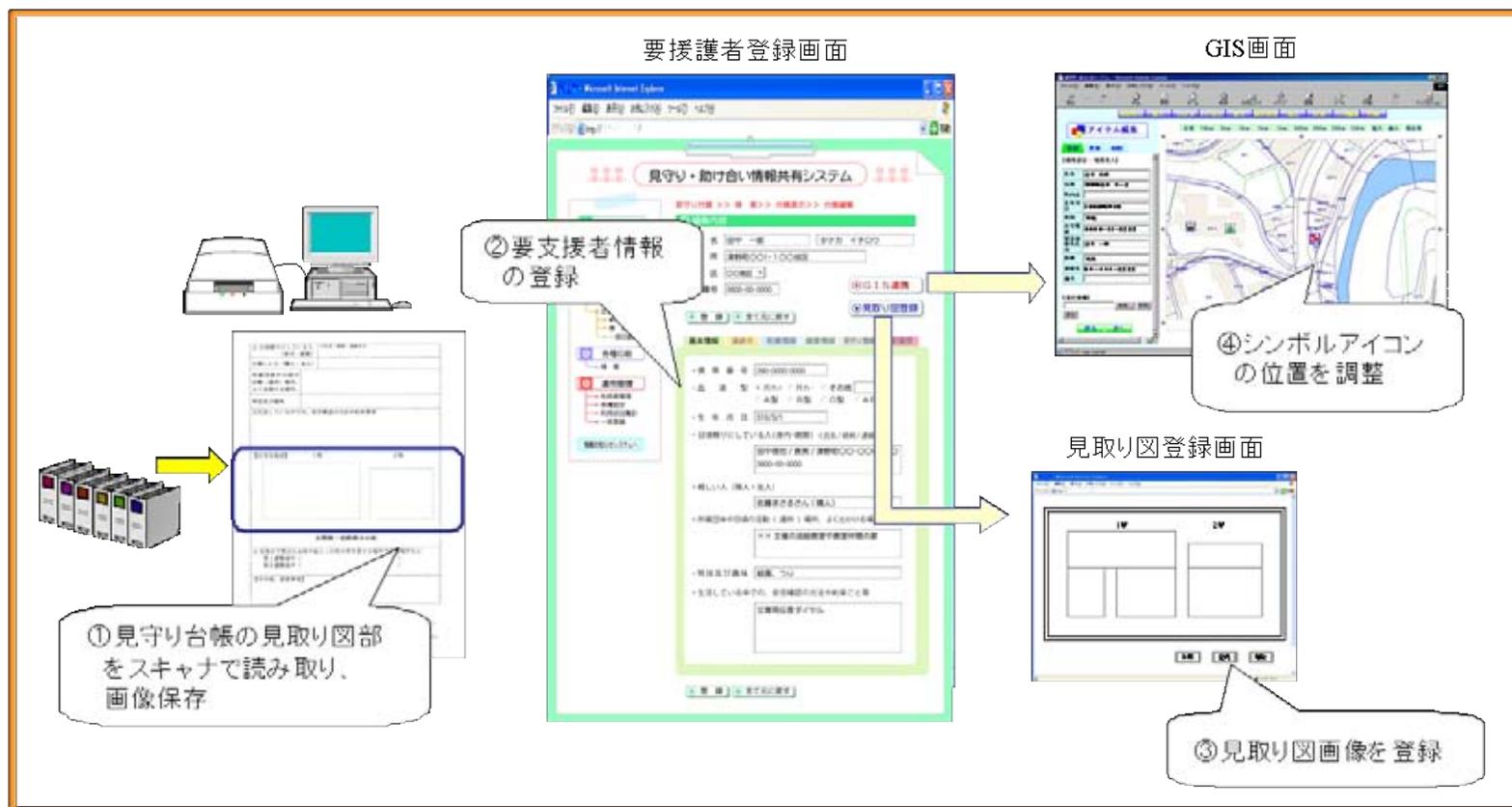
| 活王者 | 入手手段 | 活用情報 | 活用例 |
|----------------------|----------------------|--|--|
| 民生委員 | 定例会議、 メール、 電話 | ・見守り情報 | 高齢者世帯訪問時に状況を確認する |
| | | ・健康管理サービス情報 ・福祉サービス情報 ・防災・防犯情報 | 訪問時や地域サロン参加時に周知 |
| | | ・地域サロン情報 | 他地域のサロン情報を周知し、地域サロン活動を活性化する |
| 高齢者等本人 (見守られる人) | メール、 地域サロン、 口答 | ・健康管理サービス情報 ・福祉サービス情報 ・防災・防犯情報 ・地域サロン情報 | ・日常生活に役立てる ・地域サロンに参加し、健康維持に役立てる |
| 福祉委員、各種相談員、 近隣住民等 | メール、地域サロン | ・健康管理サービス情報 ・福祉サービス情報 ・防災・防犯情報 ・地域サロン情報 | ・日常生活に役立てる ・地域サロンに参加し、健康維持に役立てる ・近隣高齢者世帯のサポートに役立てる |
| 社会福祉協議会 | システム閲覧 | ・全ての情報 | ・民生委員との定例会に活用し、より効果的な見守り体制を形成する ・各関係機関からの問い合わせに対し、迅速に対応する |

| 活⽤者 | ⼊⼿⼿段 | 活⽤情報 | 活⽤例 |
|-----------------------------|----------|----------------------------------|--|
| 地域包括支援センター (津野町住民福祉課) | システム閲覧 | 全ての情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健師が訪問時や健康相談時に役立てる ・高齢者福祉計画や障害者福祉計画などの策定に役立てる ・各関係機関からの問い合わせに対し、迅速に対応する |
| 津野町総務課 (消防担当、防災担当、GIS担当) | システム閲覧 | 全ての情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に安否確認や援助対策に役立てる ・防災訓練計画に役立てる ・各関係機関からの問い合わせに対し、迅速に対応する |
| 消防組合 | システム閲覧 | 地図情報 安心安全見守り台帳情報 お守りカード情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送時に緊急連絡先、かかりつけ医、持病などの情報を役立てる |
| 警察 | システムから印刷 | 地図情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしや高齢者世帯を把握することで、見回り時の立ち寄り先検討に役立てる |
| 診療所 | 電話で問い合わせ | 安心安全見守り台帳情報 お守りカード情報 見守り情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族の連絡先確認 ・最近の生活状況を確認する |

8 . 見守り・助け合い支援システムの導入

(1) 支援機関における円滑な情報共有を実現する「見守り・助け合い情報共有システム」

- ・安心・安全見守り台帳をベースとし、地域包括支援センター・社会福祉協議会・民生委員・消防組合など各支援機関（安心・安全ネットワーク会議のメンバー）における情報共有を円滑に行う仕組みを構築
- ・情報の二重管理を防ぐとともに、見やすく使いやすいシステムを目指し、既存の地理情報システム(GIS)とのデータ連携機能を実施



(2) 支援機関と住民 及び 住民同士の連携を強める「見守り・助け合い情報お知らせシステム」

- ・支援機関に加え、ボランティア(福祉委員、相談員など)・家族・隣人など一般住民まで含めた情報伝達及び情報登録を可能とする仕組み



9 . 見守り・助け合い活動の活性化

(1) 協議会の推進

仕様の決定、見守り・助け合い支援システムの基本設計及び結果確認など、安心・安全ネットワーク会議で審議を行い、関係機関で一体となる見守り・助け合い活動を行った。

事業期間内では、9月、10月、12月、3月の4回の会議を実施している。

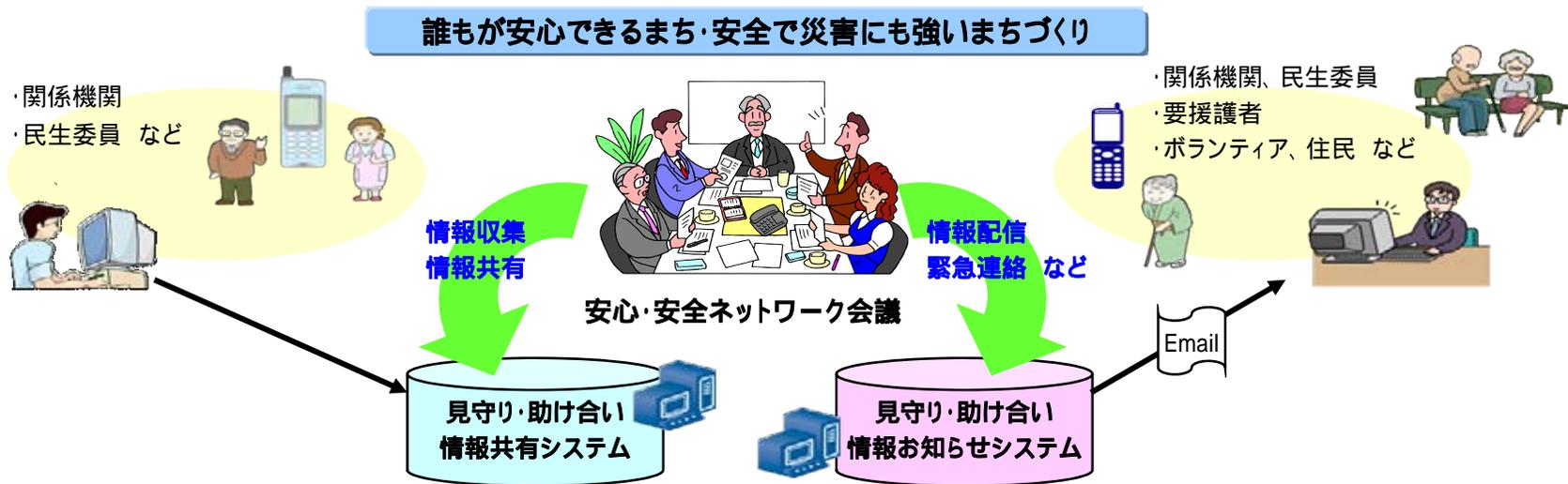
(2) 研修による知識向上と意識高揚

安心・安全なまち作りのための研修

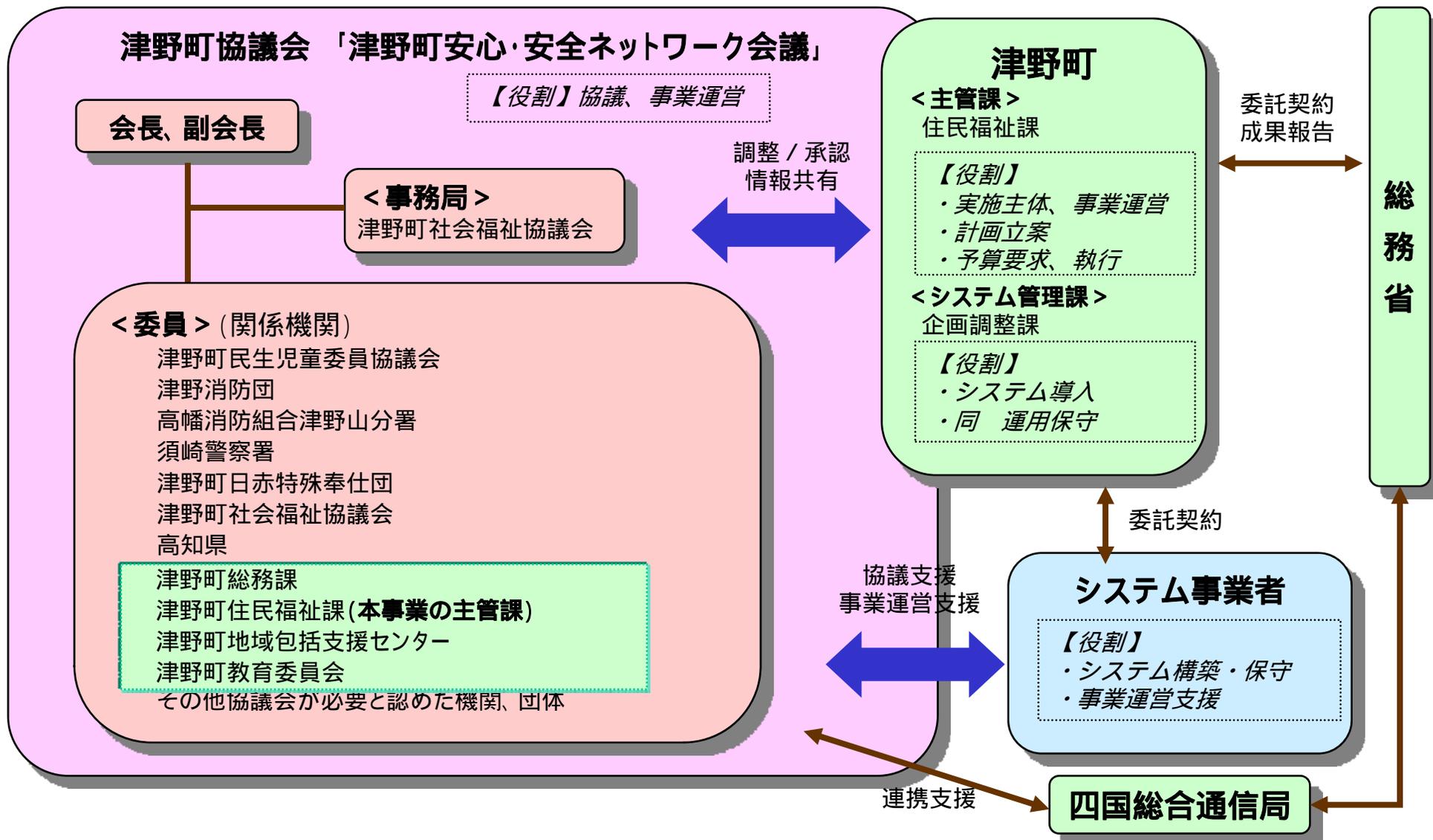
援護者の知識向上による議論の活性化、官民が一体となった団結力の高い見守り・助け合い活動を行うべく、安心・安全ネットワーク会議メンバーに加え、女性地域活動支援者や住民代表者への研修を実施した。

要援護者への個人情報保護に向けたセキュリティー研修

必要十分なセキュリティー対策を施すとともに、セキュリティーの重要性を再確認するため、関係者にセキュリティー勉強会を実施した。関係者86%(39名)の参加が得られ、セキュリティーを重視したシステム運用について十分教育が図られたと感じている。



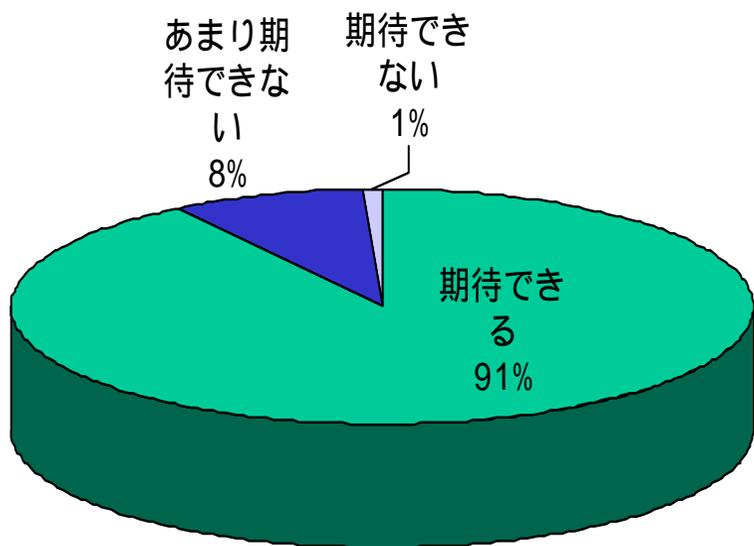
10 . 事業体制



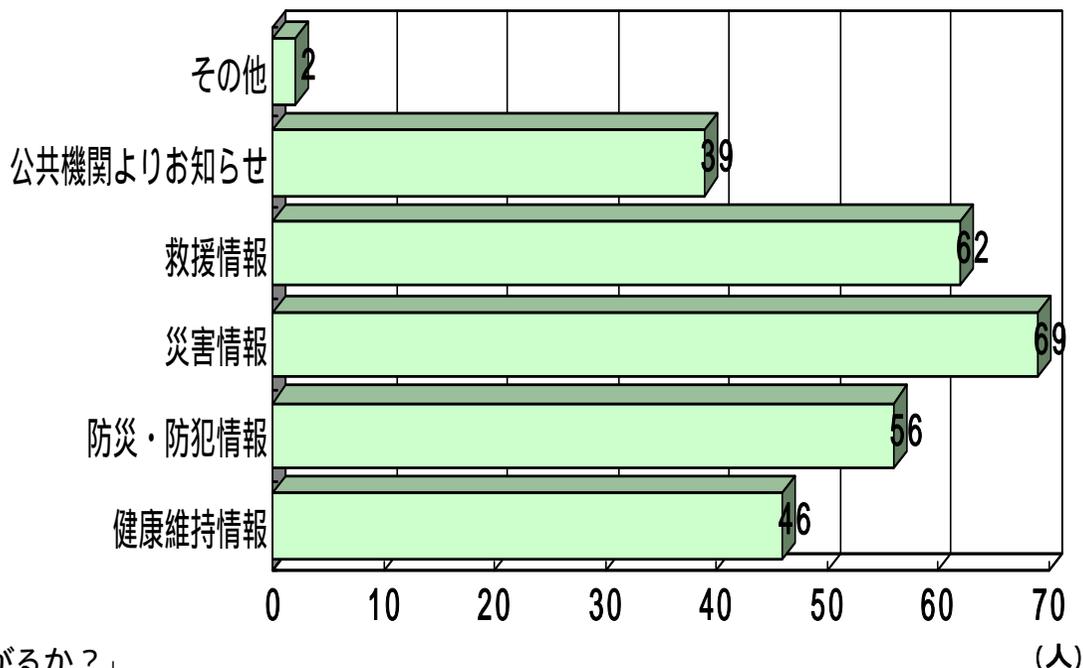
1.1 事業実施による効果

(1) 住民アンケートより

- ・福祉のまち作り研修会への住民参加者132名にアンケートを実施した。中でも「本事業が見守り・助け合い活動の活性化に寄与できるか？」という質問では円グラフのとおり、91%が「期待できる」と回答を得ており、住民の期待感が伺える。
- ・今年事業から予定の一般住民との情報共有については、棒グラフのとおり防災・防犯関連の情報に特に興味集中している。これらアンケートの内容を考慮し、今年度事業を進めていく方針である。



図：アンケート結果
「質問内容：本事業は見守り・助け合い活動の活性化に繋がるか？」



図：アンケート結果(複数選択)
「質問内容：本事業で受けたい情報は何か？」

(2) 支援者アンケートより

・住民アンケートに比べ、職員アンケートでは期待感が下がっている。理由としては住民への浸透度や新しいシステムへの抵抗が見受けられる。すなわち今後は住民への情報提供を進め住民に浸透させること。そして職員の業務に直結させ業務効率化を図ることが平成20年度、21年度の方針と考えている。

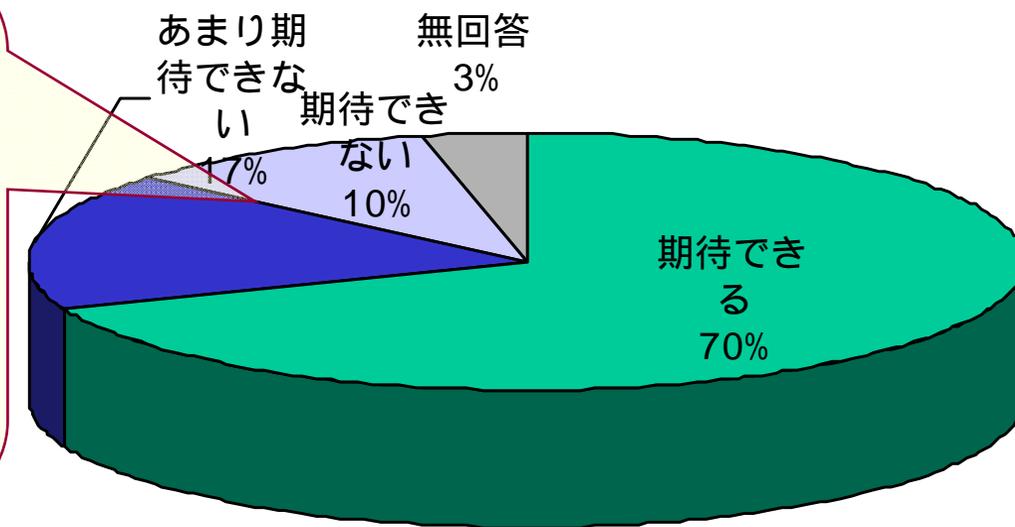
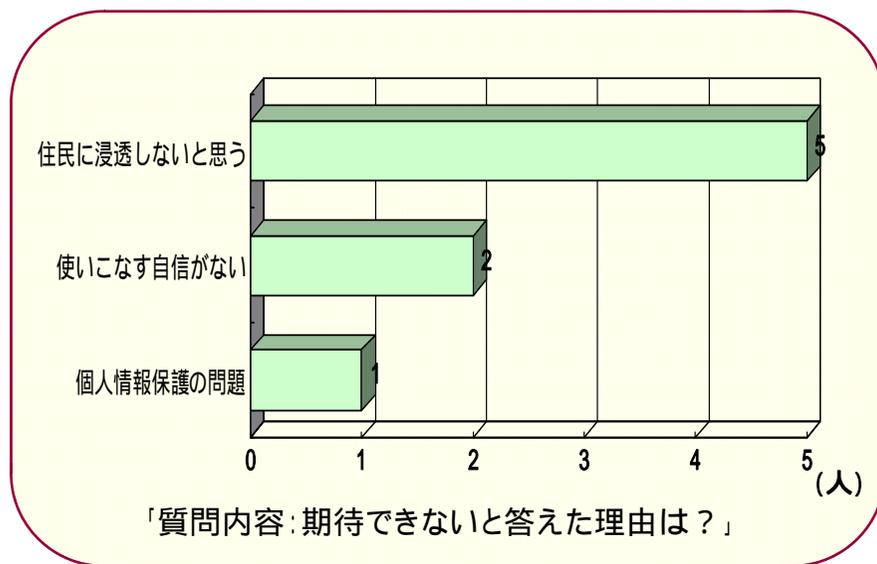


図: 支援者アンケート結果(29人)

「質問内容:本事業は見守り・助け合い活動の活性化に繋がるか？」

1 2 . 事業運営上の課題

(1) 時間的な課題

- ・短期間での実施のため十分な成果確認ができなかった。ただし複数年継続実施の事業であるため、今年度確認の成果が重要と考えている。

(2) 人的問題

- ・高齢者等のICT利活用に対する不安
- ・支援機関が新しい業務に対する不安

(3) 財源的問題

- ・教育、運用費の増大
- ・事業完了後の運営費用の準備
- ・ICT利用ができない地域の解消

1 3 . 事業実施後の課題

利用者範囲による課題

- ・現状はシステム利用が援護者のみであり、地域住民へのICT恩恵享受がされていない
- ・住民へのシステム開放するにあたり、利用価値がある情報提供が必要
- ・DB登録時には個人情報の扱いに関する承認が必要
- ・ICTを利用した情報の相互流通の意識改革が必要
- ・利用者が増大することによる管理者負担増の抑制



他システム連携による課題

- ・稼働中の他システムとのデータの2重管理
- ・地域情報プラットフォームへの準拠
- ・GISシステムの利用範囲拡大と機能追加



機能面による課題

- ・消防の緊急通報受付時の情報ポップアップ
- ・緊急時安否確認の操作性
- ・携帯利用可能キャリア
- ・大規模災害時の対応

14 . 今後の展開と達成目標

事業展開ポイント

| | H19年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 | H23年度 |
|---------------------------------|--|--|--------------------------------------|-------|-------|
| 見守り・助け合い支援システム整備・運用 50,500千円 | 見守り・助け合い支援システムの構築 | 診療所等との連携 利用者追加、情報提供の拡大 データ登録/運用方法等の改善・項目追加 | 家族、近隣住民への情報提供 データ登録/運用方法等の改善・項目追加 | | |
| 五目マップ(GIS)の整備 | データベースとGISシステムとの連携 | 利用者追加、情報提供の拡大 データ登録/運用方法等の改善、項目追加 | | | |
| 安心安全ネットワーク体制運用 2,630千円 | 定期的な会議の開催 日常的な見守り、助け合い活動の推進 住民の防災意識の明確化と体制整備 | | | | |
| | 民生委員・高齢者へのICT利用教育 | | | | |

【目的】

ICTを利用し、ひとり暮らし高齢者等の見守り環境を整備し、日常的な見守り・助け合い活動を活性化する

【達成目標】

支援機関及び支援者の情報共有を円滑に行い、地域全体の見守り・助け合い活動における連携を強化し、活動が浸透すること

- ・システムに登録される情報量が豊富であること
- ・システムが使いやすいこと
- ・システム利用率(=情報の活用頻度)が高いこと

要援護者が支援機関のサービス向上を実感し、満足すること

- ・ひとり暮らし高齢者を中心とした多くの要援護者がサービスに満足し、安心して暮らせること
- ・要援護者が地域の見守り・助け合い活動に理解を示し、利用できること